特集／原 浩道 潮来市長 3期就任インタビュー　広告　企画・制作　建設未来通信社広告部

「住みたいまち潮来」の実現へ

～東関道潮来IC周辺の新たな土地利用を推進～

日本一の水路のまち整備

2期8年の実績が市民から大いに評価され、見事3度目の当選を果たした原浩道潮来市長。3期目の今期は潮来IC周辺の新たな土地利用や日本一の水路のまち、前川運動公園サッカー場の増設といった大型事業に取り組んでいく。「住みたいまち潮来」の実現を目指し、市民の期待を一身に背負う原市長に、市政展望を聞いた。

Profile －プロフィール－

原浩道（はら・ひろみち）
1962年（昭和37年）2月19日生まれの61歳。
日本大学法学部卒。市議会議員を経て2015年から現職。趣味はひょうたんづくり。

前川運動公園 人工芝サッカー場増設

■これまでの2期を振り返って

市民の皆さまにお約束した公約実現に向けて全力で取り組んできた。都市計画税の廃止や女性活躍の取り組み、給食費の無償化などの公約はおおむね達成できた。一方で道の駅やバスターミナルの整備といった時間がかかる事業はまだ道半ばといったところ。

道の駅いたこは魅力向上を図るため、国、NEXCO東日本、茨城県と連携して潮来インター出口の交差点改良、ゲートパーク前左折レーンの設置、道の駅いたこ駐車場のバリアフリー化、バスターミナル駐車場の拡張、待合所の改築などを進めてきた。

前川運動公園では人工芝グラウンドの整備を行い、市内で宿泊を伴う合宿を誘致しスポーツツーリズムの推進を図った。

さらに日本一の水路のまち実現に向けた計画の策定や病院誘致に向けた延方地区への事業用地確保、日の出消防署の設置に向けた検討、旧牛堀出張所跡地および旧牛堀町民プール跡地の利活用の検討などにも取り組んできた。

■3期目の抱負

2期目の公約を達成し、さらに市民の声を反映して公平公正な「住みたいまち潮来」の実現を目指してまいりたい。

まず、潮来IC周辺の新たな土地利用を推進したい。現在、ICの周辺は農地であり、さまざまな企業が進出できるように規制緩和を図りたい。

物流機能だけでなくホテルや観光施設、スポーツ施設などさまざまな機能を誘致し、IC周辺をひとつのまちとして整備できればと考えている。潮来ICの付近には道の駅や前川運動公園があり、運動施設としての集客も期待できる。

また、東関道の鉾田IC～潮来IC間はあと3年半で開通すると聞いている。それまでに企業誘致の出来る受け皿をつくれば、必ず需要はあると考えている。

開通に伴い、潮来市と行方市の境界付近の麻生にICが開設され、この（仮）麻生IC周辺にも企業誘致を図れるように規制緩和や土地の確保・整備を推進したい。雇用確保につながる工場などの進出を期待している。東関道の開通と同じタイミングで企業立地ができるように、計画づくりなどを早期に進めていきたい。

前川運動公園人工芝サッカー場は、夜間の利用を含めサッカー大会や合宿が頻繁に開催されるなど需要が大いに高まっている。今後、大規模大会の誘致に対応するためにサッカー場の増設を進めていく。

日本一の水路のまち整備事業は、市内を流れる前川や南幹線用水路の植栽などを進め、彩りのある水辺として人が集い、愛着が持てるような水辺空間となるよう取り組んでいきたい。

潮来市という小さなまちでは、1カ月という期間であやめまつりを行うだけでは収益を生み出すことは難しい。年間を通してお客様に来ていただける方法を考えなければならない。そのためには水辺を生かすまちづくりを考えるのがベターな選択であると考える。

この地域では江戸中期は水運が発達し、常に舟が動いていた。この地の利を観光面で活用する。常に舟が動いている状況をつくることで、東国三社を舟で巡るようなアイディアを考えている。これからは周辺自治体と連携して護岸や船溜まりの整備などを進めていく。

そのほか、新型コロナウイルス感染症の影響で遅れている小中学校の統合も推進していきたい。

■市内のインフラ整備

市内では、幅員4m未満の狭あいな道路は未舗装の箇所が多い。生活道路を優先して舗装工事を実施したい。橋梁についても、順次耐震補強を推進している。

また、過疎対策事業債を活用し、牛堀地区の生活道路の拡幅や舗装といった整備も進めていく。

そして、生活排水の適切な処理のため、新宮・水原地区の公共下水道の整備を重点的に進める。

■入札制度や表彰制度について

本市では17年から電子入札を導入している。低価格制限基準額の事前公表や、市内事業者の受注機会の拡大を図るため取りおり方式の導入も開始した。

表彰制度は、21年度からスタートした。東日本大震災の際、建設業の皆さまには復旧対応へご協力いただいた。また、道路沿いの環境整備にも積極的に参加していただいている。地域のために働いて下さる建設業の皆さんの励みになればと表彰制度を創設した。

規模の大きい工事だけでなく、小規模な工事でも受賞できるような評価基準を定めた。工事の完成度とともに地域への貢献度も評価する。日ごろから地域へ貢献している建設業の皆さまに仕事へのやる気を高めていただければと思う。

地元の建設業者が地元の仕事を受注することがやはり望ましい。地域への還元になるし、地元企業の育成にもつながる。

■建設業界へのメッセージ

日頃から市政に対し協力していただき大変感謝しております。一方で、これから人手不足がますます進むことを懸念しており、各企業が生き残っていくためには、週休二日の導入や働き方改革、女性活用を進めていかなければいけないと思います。そして人に投資できる職場環境、「働いてみたい」と思ってもらえるような環境をつくることが重要だと考えます。

建設業は社会に不可欠で、なくてはならない産業であることは間違いなく、災害への対応やインフラの維持管理など、建設業の皆さまがいなければ社会は成り立ちません。

だからこそ各社が頑張って企業を魅力あるものにしていっていただきたいです。行政としても可能な限りサポートをしたいと考えております。

可動式の屋根改修へ

第2四半期にも設計発注

常総市／きぬ温水プール

常総市は、きぬ温水プール（坂手町3552・きぬ総合公園内）可動式屋根等の大規模改修工事を行う。本年度は実施設計を進める予定で、第2四半期にも発注したい考えだ。履行期間は180日間を見込む。着工時期は2024年度を目指すが、現時点では確定していない。

プールの屋根は、現状ガラス張りで可動式となっているが、老朽化の進行が問題となっている。このため、固定の屋根へと改修することを検討する。屋根と同じくガラス張りである側壁も含めて、大規模改修を行う見込みだ。

施設全体の建物規模は、S造平屋建て、延べ面積は約1708㎡。プール棟、事務室や監視室などを備える管理棟、機械室・器具室などを備える機械棟で構成する。築年数は33年が経過している。

今回、改修工事を行うのはプール棟のみ。プール棟は、25m×7コースの一般用プール、14m×5・5mの幼児用プールなどを有する。

当初予算では、実施設計委託料として260万円を計上している。

また、市の社会体育施設長寿命化計画策定業務も、本年度中に着手していくとのこと。きぬ温水プールを含む17体育施設の現況調査や長寿命化計画を進めていく。第2四半期に発注し、年度内にまとめる。当初予算では、委託料820万円を計上した。

サッカー場増設へ設計

前川運動公園 24年度の着工めざす

潮来市

潮来市は本年度の当初予算で都市公園整備事業に7200万円を計上、内訳は前川運動公園サッカー場増設に向けた設計に6000万円、都市公園の長寿命化計画策定に1200万円。サッカー場増設工事は2024年度の着手を目指す。

前川運動公園では21年度に多目的グラウンドの人工芝や照明設置工事、クラブハウスの建設工事などを実施。人工芝工事は㈱茂木工務店、施設建築工事は澤田建設㈱、照明設備設置工事は㈱小林電気商会、誘導灯設置工事は小野村工業㈱が担当。22年4月に人工芝サッカー場として供用を開始した。

オープン以来、人工芝サッカー場は夜間の利用を含めサッカー大会や合宿が頻繁に開催されるなど利用者が増加し、人気を博している。

市では需要の高まりへ対応するとともに大規模大会の誘致を図るため、公園内に新たなサッカー場を増設することとした。

整備場所は現在のサッカー場付近、公園内の空きスペースを活用する予定だ。

整備するのは人工芝サッカーコート1面。少年用としては2面使用が可能となる。計画では本年度の早期に設計を発注し、予算が付けば24年度に着工する。

公園の長寿命化計画は、適正な維持管理を図るために策定するもの。対象となるのは24カ所の都市公園。4カ月。設計は直営でまとめる。

今回改修を行うのは事務室と脱衣所の空調機器。経年劣化に対応するため、更新を行い環境改善を図る。

同施設は、ふれあいと交流を通して地域の活性化を図り住民の福祉に資することを目的とする温泉施設。地域の観光の中核として重要な施設となっている。

ゆりの郷空調 夏ごろ公告へ

石岡市

石岡市はやさと温泉ゆりの郷の空調機整備工事を夏ごろに一般競争入札で発注する予定だ。予定工期は約

公募型プロポ公告

ピサーロ子ども広場 遊具設置など委託

常陸大宮市

常陸大宮市は、ショッピングセンターピサーロ（下村田2387）の子ども広場整備を進めている。市は、子ども広場遊具設置等業務委託の公募型プロポーザルを公告した。委託上限額は5500万円（運搬設置費、消費税含む）。履行期間は9月22日まで。

業務内容は、子ども広場遊具等設置業務、子ども広場遊具等に関する研修等業務。

整備場所は施設内にある旧フードコートやセンターコートなどがある場所で、整備予定面積は450・21㎡。子ども広場のシンボルとなる吹き抜けを利用した大型のネット遊具のほか、体を動かすエリア、知育エリア、絵本コーナーなどの整備を想定している。

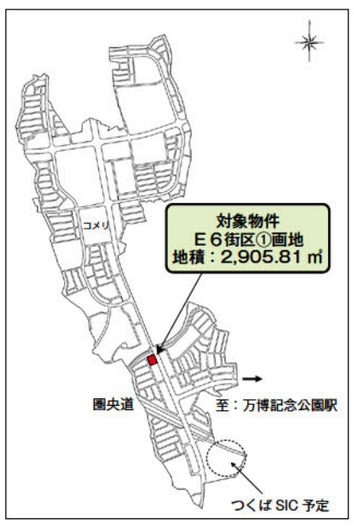
現在はフロア改修工事を行っており、7月末に終了を予定。5月下旬からはエスカレーターの撤去工事を計画しており、同時進行で遊具の設置を行う。

今後のスケジュールは、企画提案書の提出が5月15日の午後5時15分まで（当日消印有効）。1次審査（書類審査）を5月中旬、2次審査（プレゼンテーション審査）と結果通知を5月下旬、委託契約の締結は6月上旬を予定している。

商業用地 2905㎡分譲

上河原崎中西地区 5月16日に一般競争

県宅地整備販売課は、上河原崎・中西地区の商業・業務施設用地を一般競争入札で分譲する。面積は2905・81㎡。予定価格（最低売却価格）は2億1851万6000円。5月16日(火)午前10時に開札する。



分譲するのは、上河原崎・中西特定土地区画整理事業施行地区のE6街区①画地。

つくばエクスプレス万博記念公園駅の北西徒歩約22分の沿道サービス地区に位置し、主要地方道つくば真岡線バイパス、つくば市道7-4044号線に接している。

用途地域は近隣商業地域（建ぺい率80%、容積率200%）。

土地利用の主な条件として、土地の引渡しの日から3年以内に施設を建設し、営業を開始することなどを設定している。

入札説明書の配布期間は今月26日まで。入札参加資格審査受付は25日・26日。

入札者がいない場合などは、5月17日～8月31日までの間、先着受付で買受人を決定する。

コンテスト作品募集

河川工事のナマ現場写真

関東地整

国土交通省関東地方整備局は、河川工事（河川・海岸・ダム・砂防）"ナマ"現場写真コンテストの作品を募集している。募集期間は2024年2月9日まで。工事現場の瞬間の『記録と記憶』の1枚を募集し、優秀な作品には賞を授与するとともに、河川工事の広報に活用する。

応募対象は同省が施行する河川工事（河川・海岸・ダム・砂防）に携わる人が撮影した写真で、今年2月～24年1月末までに撮影されたものとする。

河川工事の現場は、日常生活の場から離れた場所での工事が多く、人目に触れることが少ないことから、日ごろ見ることができない現場の写真を工事現場に携わる人から募集する。

問い合わせは、同局河川部（電話048-601-3151）。

県土木部・幹部 きょうの動向

（○＝在庁　●＝不在）

	午前	午後
【本　課】		
部長	○	○
次長（事）	○	○
次長（技）	○	○
都市局長	○	○
港湾振興監	○	○
企画監	○	○
監理課長	○	○
用地課長	○	○
検査指導課長	○	○
道路建設課長	○	○
道路維持課長	○	○
河川課長	○	○
港湾課長	○	○
営繕課長	○	○
都市計画課長	○	○
都市整備課長	○	○
下水道課長	○	○
建築指導課長	○	○
住宅課長	○	○
【出　先】	午前	午後
水戸土木所長	○	○
常陸大宮土木所長	○	○
大子工務所長	○	○
潮来土木所長	○	○
土浦土木所長	○	○
筑西土木所長	●	●
常陸太田工事所長	○	○
高萩工事所長	●	●
鉾田工事所長	●	●
竜ケ崎工事所長	○	○
常総工事所長	○	○
境工事所長	○	○